

弦楽四重奏の新しい地平

くたつた4人のオーケストラ



モルゴーア・クアルテット コンサート

2021年

日時 **12月3日(金) 18:30 開演**

17:45 開場

会場 **秋田市文化会館** (秋田県秋田市山王 7丁目3-1)

出演者 荒井英治 (第1ヴァイオリン)、戸澤哲夫 (第2ヴァイオリン)、
小野富士 (ヴィオラ)、藤森亮一 (チェロ)

入場料 **全席指定 1,000円**

※前売券が完売の場合、当日券はありません。

※車椅子席の前売券の購入をご希望される方は、購入前に秋田市文化会館へご連絡ください。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※新型コロナウイルス感染拡大により、入場者数を制限する場合があります。

※本コンサートは(公財)三井住友海上文化財団の助成により特別料金に設定しています。

主催 秋田市、秋田県、(公財)三井住友海上文化財団

お問合せ 秋田市文化会館 TEL.018-865-1191 (9:00~17:00)

プレイガイド 秋田県庁地階売店、さきがけニュースカフェ、細川レコード店

11月1日(月) 前売開始!



program

*シヨスタコーヴィチ

弦楽四重奏曲第4番 二長調 作品 83

*グレッキ

弦楽四重奏曲第1番 作品62「すでに日は暮れて」

*エマーソン・レイク&パーマー (荒井英治編曲)
スタイル ... ユー・ターン・ミー・オン
タルカス

※プログラムは変更になる場合がございます。
予めご了承ください。





MORGAUA QUARTET

モルゴーア・クアルテット

荒井英治 (第1ヴァイオリン) Eiji Arai / 1st Violin 元東京フィルハーモニー交響楽団ソロコンサートマスター

戸澤哲夫 (第2ヴァイオリン) Tetsuo Tozawa / 2nd Violin 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター

小野富士 (ヴィオラ) Onofuji / Viola 元NHK交響楽団次席ヴィオラ奏者

藤森亮一 (チェロ) Ryoichi Fujimori / Violoncello NHK交響楽団首席チェロ奏者

私たちモルゴーア・クアルテットは長い演奏経歴を持っていますが、一貫して『挑戦』という立場を忘れずに活動しております。

作曲家が曲を書くこと自体、『挑戦』といえるならば、弦楽四重奏はそれにもっとも相応しいジャンルとしてありつづけていたのではないのでしょうか?ならば演奏する私たちはそれが名曲であれ秘曲であれ、やはり『挑戦』を受けて立つ気概は必要です。それがとりもなおさずモルゴーアを支えてきたエネルギーなのです。

このたび秋田市で演奏を聴いていただくチャンスに恵まれ、とても嬉しく思います。なぜならコンサートは新しい出会いを生むからです。そして音は聴く人の心の中に生き続けるでしょう。

モルゴーアは決してアクロバティックな器用なグループではないし、昨今の華麗な身体的パフォーマンスを持ち味としているわけでもありません。しかし、直接空気を通して伝えられる音、リズム、ハーモニー、そしてメロディーがあれば充分です!音楽の深い愉しみは『音楽』が伝えてくれます。

そこで私たちが組んだプログラムは、あえてモルゴーアの強みとするところを押し出すことに致しました。

ショスタコーヴィチのシンフォニックな展開を持つ重厚な第4番は、とても聴きやすく美しい響きも随所に聞かれます。第2楽章の抒情、第4楽章は有名な第5番の交響曲を凝縮したようでもあります。

グレッキは、ポーランドの作曲家です。これも重厚な響きですが、ヨーロッパ的なものと異教的な要素がミックスされているようなユニークな時間が展開されます。同時に詩的でかつ映像的な作品で一度聴いたら忘れられない曲です。

そして後半のロックは1970年代のプログレを代表するELPこと、エマーソン・レイク & パーマーです。その華麗な世界を弦楽四重奏の限界に挑戦すべく、暴れ回りたいと思います。

モルゴーアはロックを弾くのが大好きです!なぜって、ロック魂がモルゴーアですから。

それでは皆さまとの熱い出会いを心待ちにしております。

モルゴーア・クアルテット

モルゴーア・クアルテット

MORGAUA QUARTET / String Quartet MORGAUA QUARTET (モルゴーア・クアルテット)は、ショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため、1992年秋に結成された弦楽四重奏団。翌'93年6月に第1回定期演奏会を開始。2001年1月の第14回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。同年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。'01年11月からは「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催公演で『モルゴーア・クアルテットショスタコーヴィチ・シリーズ』を5回に亘って行ない、'03年12月に2度目の完奏。ショスタコーヴィチ没後40年(2015)から生誕110年(2016)をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を'15年大晦日から'16年元旦にかけて「横浜みなとみらいホール小ホール」で開催。一晚で全曲演奏するという躍目のプログラムで多くの聴衆を集め、4度目の完奏。'12年6月と'14年5月、そして'17年3月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレシヴ・ロック・アルバム《21世紀の精神正常者たち》《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としての高い評価を受ける。1998年1月第10回「村松賞」、2011年5月「2010年度アリオン賞」、2016年9月「第14回佐川吉男音楽賞奨励賞」、2017年9月「第47回JXTG音楽賞洋楽部門本賞」、2018年6月「第28回みんゆう県民大賞芸術文化賞」を受賞。モルゴーア・クアルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。「モルゴーア」は、エスプラント語(morgaua=明日の)に原意を持つ。